

一般講演

1) 平成16年度歯学部第1学年病院体験学習 — 学生による問題点の抽出とその対応 —

○鎌田 政善, 天野 義和, 菊井 徹哉, 佐々木重夫
佐藤 純, 竹内 操, 小林 康二, 渋澤 洋子
川合 宏仁, 三田 明, 梅村 幸生, 島田 敏尚
釜田 朗, 山崎 信也, 車田 文雄¹, 山崎 章²

(奥羽大・歯・附属病院病院体験学習担当,
口腔衛生¹, 口腔病態解析制御²)

低学年の早期に実際の臨床を見学または体験させる教育概念 (Early Exposure) は, 自覚の形成を促す上で極めて効果が高いことが報告されており, 医学部・歯学部の教育に導入されている。本学においても平成15年度より病院体験学習を第1学年の学生を対象に実施し, 学生のアンケート結果をまとめて日本歯科医学教育学会雑誌の第21巻1号に「奥羽大学歯学部第1学年における Early Exposure の効果」と題し報告してきた。そこで今回は, 平成16年度の歯学部第1学年の病院体験学習終了後に, KJ法を用いた病院体験学習の問題点の抽出ならびに二次元展開法での問題点への対応について, 学生がまとめた結果について報告した。

まず, 平成16年度の第1学年の学生を1グループ9~10名からなる10グループに編成した。病院体験学習が全て終了した翌週の12月22日(水)の4時限目の90分間でKJ法を用いて問題点の抽出とその関係図をSGDにより作成。次いで, 1月12日(水)の4時限目に二次元展開法による問題点とその対応策についてSGDにより作成。1月19日(水)の4時限目に各グループのプロダクトの発表を, 1グループ発表時間5分, 全体討議3分で行った。

第1学年の学生による病院体験学習の問題点の抽出とその対応策については, 多くの意見がでたが, 以下の4項目に大きくまとめることができた。

1. 学生自身の意識・感心の低さに対しては, 医療を学ぶ者としての自覚を持つこと, 定期的に歯科検診を受けること等があげられた。
2. 担当教員への要望に対しては, 各科ごとに

説明用プリントを配布すること, わかりやすい言葉で説明すること等があげられた。

3. システム上の問題点に対しては, 受身的な内容でなく学生が参加できる内容の拡充, 学生の希望する診療科に行けること等があげられた。

4. 患者さんへの配慮に対しては, 患者さんに挨拶をすること, 見学日時をあらかじめ患者さんに知らせること等があげられた。

これら学生の意見を参考として, 改善すべき点などこれからの病院体験学習だけでなく, Early Exposureの効果が上がるようなカリキュラムを考え, 6年一貫教育の礎にしていきたいと考えている。

2) 奥羽大学歯学部附属病院における BLS-AED講習会実施概要

○山崎 信也, 島村 和宏, 佐々木重夫, 鈴木 史彦
竹内 操, 金 秀樹, 川合 宏仁, 島田 敏尚
長谷川淳子, 国分美保子, 高橋 知子, 加藤由起子
川口 真弓, 田代 美和, 小林 勝彦, 齋藤 高弘
奥秋 晟

(奥羽大・歯・附属病院 BLS/ACLS委員会)

【緒言】一般人のAED(自動除細動器)の使用が認められ, 愛知万博や福島原発など, AEDを用いた心停止患者の救命例が続々と報告されている。このような状況で, 病院などではAEDを設置することがリスクマネジメントとして位置づけられるようになり, なおかつ, 一般人がAEDを使用できる状況で, 医療従事者がAEDの正しい使用方法が「分からない」は, 通用しない状況になってきている。本学附属病院でも本年4月にAEDを設置したことに伴い, 病院全職員対象にBLS-AED講習会を実施したので, その概要を報告する。

【概要】まず, BLS/ACLS委員会を設置し, 29名のインストラクターを選定した。インストラクターコンセンサス会議を2回行い, マニュアル作成により, インストラクションの統一化を図った。講習会は8月18日~9月29日までの平日17:30~18:30で, 1回の受講者6~9名に対しインストラクター3名とし, 合計29回実施した。インストラクターは学会認定の心肺蘇生コースを修了